



魚津市イメージキャラクター

ミラたん

魚津市プレスリリース 平成 31 年 4 月 1 日

国民健康保険医療費分析結果の概要を報告します。

レセプト及び特定健診のデータを基に、統計分析から課題の洗い出しを行い、分析結果を活用して保健事業を実施することを目的に医療費分析を行いました。

※対象診療年月：平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月診療分

数値からみられる実態

○前期高齢者（65 歳以上）の受診率が高い傾向にあります。

被保険者の約 8 割が医療機関を利用している中で、前期高齢者の割合が約 6 割となっています。

患者一人当たり医療費：58,245 円／月、698,940 円／年
被保険者一人当たり医療費：414,421 円

○高額レセプト発生患者の疾病傾向から、患者数が多い疾病は「がん」「骨折」「関節症」となっています。

がん検診受診率の向上、適度な運動習慣や食生活の見直しについて改善していく対策が求められます。

○人工透析患者については、多くの患者が糖尿病を起因として透析となる、糖尿病性腎症であることが判明しました。

腎症の悪化を遅延させるため、早期に保健指導を行い生活習慣の改善を目指していきます。

腎症患者：358 人、内、指導候補者：96 人、指導対象者：19 人

○多受診（重複受診・頻回受診・重複服薬）者について、レセプトデータを用いて集計を行いました。

医療費の適正化につなげるために、「服薬情報のお知らせ」の通知の送付を始めました。初めての取組みとして、かかりつけ医・かかりつけ薬局を持っていただくいい機会になると捉えています。

担当部署：市民課

（課長）海野 貴志

（担当者）小林 芳久

電話 0765-23-1011

F A X 0765-23-1059

E-Mail kokuho@city.uozu.lg.jp

国民健康保険医療費分析結果の概要

レセプト及び特定健診のデータを基に、統計分析から課題の洗い出しを行い、分析結果を活用して保健事業を実施することを目的に医療費分析を行った。

※対象診療年月：平成29年4月～平成30年3月診療分

【基礎データ】※データ化の範囲…入院、入院外、調剤の電子レセプト

	被保険者	平均患者数	患者一人当たり平均医療費	レセプト1件当たり平均医療費
月間平均	8,459人	4,410人	58,245円	25,817円

○年齢階層別基礎統計

年齢階層	被保険者数	割合	年齢階層	患者数	割合
0歳～64歳	4,553	47%	0歳～64歳	3,265	42%
65歳～	5,040	53%	65歳～	4,501	58%
合計	9,593	100%	合計	7,766	100%

被保険者（年内有資格）9,593人に対して患者数が7,766人であり、被保険者の約8割が医療機関を利用している。又、罹患被保険者中、前期高齢者（65歳以上）の割合が約6割となっている。

【高額レセプトに係る分析】

高額レセプト発生患者の疾病傾向から、患者一人当たりの医療費が高額な疾病は、「貧血」「白血病」となり、患者数が多い疾病は、「その他の悪性新生物」「骨折」等である。

（患者一人当たりの医療費順）

順位	疾病分類(中分類)		主要傷病名 ※ (上位3疾病まで記載)	患者数 (人) ※	医療費(円) ※			患者一人当たりの 医療費(円) ※
					入院	入院外	合計	
1	0301	貧血	発作性夜間ヘモグロビン尿症、特発性再生不良性貧血、急性失血性貧血	3	8,544,530	44,192,360	52,736,890	17,578,963
2	0209	白血病	急性骨髄性白血病	3	34,531,000	883,620	35,414,620	11,804,873
3	0302	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	特発性血小板減少性紫斑病、播種性血管内凝固、血友病B	6	14,551,620	49,062,790	63,614,410	10,602,402

（患者数順）

順位	疾病分類(中分類)		主要傷病名 ※ (上位3疾病まで記載)	患者数 (人) ※	医療費(円) ※			患者一人当たりの 医療費(円) ※
					入院	入院外	合計	
1	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	前立腺癌、胸部食道癌、胆のう癌	49	101,229,780	43,975,830	145,205,610	2,963,380
2	1901	骨折	大腿骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折、大腿骨転子部骨折	35	55,134,860	9,513,190	64,648,050	1,847,087
3	1302	関節症	変形性膝関節症、両側性原発性膝関節症、変形性股関節症	20	35,276,570	6,145,210	41,421,780	2,071,089

○がん検診受診率（H29年度）

胃がん：11.5% 肺がん：8.8% 大腸がん：9.6%

目標値：50%に対して低い受診率となっている。がん検診受診率を向上させ、高額医療費となる患者数を抑制していく必要がある。

「骨折」「関節症」について、身体機能の低下を抑制し介護予防につなげる取組みが必要である。適度な運動習慣や食生活の見直しについて改善できることを実行していく対策が必要と考える。

【人工透析患者の実態】

「透析」は傷病名ではないため、「透析」にあたる診療行為が行われている患者を特定して集計。分析の結果、起因が明らかとなった患者のうち、61.9%（21人中13人）が生活習慣病が起因であり、その61.9%が糖尿病を起因とする糖尿病性腎症であることが分かった。

対象レセプト期間内で「透析」に関する診療行為が行われている患者数

透析療法の種類	透析患者数 (人)
血液透析のみ	20
腹膜透析のみ	1
血液透析及び腹膜透析	0
透析患者合計	21

保健指導対象者の特定 腎症患者：358人 指導候補者：96人 指導対象者：19人

- ・直近の人工透析患者の状況：15人（H30年12月診療分）
- ・透析に至らない場合の医療費抑制可能金額（指導対象者：19人）

人工透析患者の平均医療費 500万円 透析に至らない慢性腎不全患者の平均医療費 300万円
 (500万円-300万円) × 19人 = 3,800万円 (抑制可能金額)

【多受診（重複受診・頻回受診・重複服薬）患者数とその傾向】

(重複受診)

(頻回受診)

順位	病名	分類	割合(%)	順位	病名	分類	割合(%)
1	不眠症	神経系の疾患	22.0%	1	統合失調症	精神及び行動の障害	26.8%
2	うつ病	精神及び行動の障害	15.6%	2	高血圧症	循環器系の疾患	9.6%
3	便秘症	消化器系の疾患	11.5%	3	腰痛症	筋骨格系及び結合組織の疾患	8.7%
4	変形性膝関節症	筋骨格系及び結合組織の疾患	5.5%	4	変形性膝関節症	筋骨格系及び結合組織の疾患	8.5%

(重複服薬)

順位	薬品名 ※	効能	割合(%)
1	デバス錠0.5mg	精神神経用剤	16.4%
2	フルニテゼラム錠2mg「アメル」	催眠鎮静剤, 抗不安剤	10.5%
3	アモキシシリンカプセル25mg	精神神経用剤	10.0%
4	レバミド錠100mg「オーツカ」	消化性潰瘍用剤	5.6%

重複受診者：延べ50人(月平均4人) 頻回受診者：延べ395人(月平均33人)

重複服薬者：延べ149人(月平均12人)

※重複受診：1ヶ月に同系の疾病を理由に、3医療機関以上を受診

頻回受診：1ヶ月に12回以上受診

重複服薬：1ヶ月に同系の医薬品が複数の医療機関で処方され、同系医薬品の日数合計が60日を超える

【ジェネリック医薬品の利用促進】 ※国の目標値：2020年9月までに使用割合を80%

切り替え可能数量をすべて切り替えた場合 73.7%⇒87.3%

切り替えによる削減可能額 約2,656万円/12ヵ月間

ジェネリック医薬品への切り替えポテンシャル(厚生労働省指定薬剤数量ベース(医科調剤数量))

A 薬剤総量(★★を含む) 13,964,207	B 薬剤総量(★★を除く) 11,308,659	C ジェネリック医薬品薬剤数量 5,362,335 47.4%	D 先発品薬剤数量 5,946,324 52.6%	E ジェネリック医薬品が存在する数量 1,909,247 16.9%	F ジェネリック医薬品が存在しない数量 4,037,078 35.7%	E1 通知対象のジェネリック医薬品切替可能数量 986,939 8.7%	E2 通知対象外のジェネリック医薬品切替可能数量 922,307 8.2%	C ジェネリック医薬品薬剤数量 5,362,335 73.7%	E1 通知対象のジェネリック医薬品切替可能数量 986,939 13.6%	E2 通知対象外のジェネリック医薬品切替可能数量 922,307 12.7%
ジェネリック医薬品普及率										
現在 率										
73.7%										
切替後 率										
87.3%										